

NPO法人

真の友と奏でる、学びの喜び

# 新しいちよう大学校



開講 ● 7つのコース

① 音楽の魅力

② 英語を学ぶ

③ 英会話

④ 伝統芸能と大阪

⑤ 日本の文学と大阪

⑥ 日本の歴史と大阪

⑦ 国際社会への理解

## 第8期受講生募集

応募の締切 2021年4月9日(金) / 開校式 2021年4月19日(月)

<OCAT ビル>



《受講の会場》

大阪市立  
難波市民学習センター  
(OCATビル4階)

最寄り駅 各線「難波駅」

ご挨拶

### 「新しいちよう大学校」第8期生を請う

NPO法人・新しいちよう大学校では、2021年度、第8期の受講生を募集いたします。講師一同、熱烈に歓迎するものであります。人は必ず老いるものです。でも、心のオイルだけは満タンにしておこうではありませんか。サプリメントは膝や腰にはたっぷりと与えているかも知れませんが、心こそサプリメントが要るのです。オペレーターは増員してもおりません。今、お申し込みなら『更にココから!』などと言う特典もありません。が、「学ぶ」熱意にお応えするに十分な講師を揃えております。

私の師匠・三代目旭堂南庵は、80歳を迎えた時にものすごく落ち込みました。「去年まで出来ていた事がでけんようになった…イヤ、昨日まででけてた事が今日はもうでけへん」と。講談というのは、長い物語を覚えて披露する商売です。それまでは当たり前のように口演出来ていたお話が出てこなくなったというのです。でも、しばらくすると、師匠は明るい顔になりました。理由をと尋ねると「年がいったら誰でも忘れるものや、というのを忘れとった。そやから、忘れたら、また覚えたらエエのや。生きてるさかいでける事や」。

今や「八十の手習い」です。学舎(まなびや)で学生時分を思い出しながら学ぶというのも、また楽しからずやであります。学べば「余裕」が生まれます。すると「軽口(かるくち)」の一つも出るようになるでしょう。頑固な高齢者より茶目っ気ある年寄りを目指しませんか? 「鬼滅の刃」は何も若者にもみ享受されるものにはあらず。「ワシも知ってるよ…ホレ…アノ…『キツめの入れ歯』」くらいのダジャレの一つも言えるようになるかも知れません(エ?言いたくない?そうですね…)

孤高に学ぶもあり。また学友を得るもあり。学科の他に企画される「研修バス旅行」や「新年会」に楽しみを見つけるもあり。そして同窓会的な「親睦会」に心寄せるもまたあります。

楽しみは一步踏み出す若さかな。サア来たれ! 元若人(わこうど)! そして心の若人となりましょう!

2020年11月

NPO法人 新しいちよう大学校

学長 旭堂 南海(講師)

《後援》 大阪府・大阪市教育委員会・一般財団法人大阪教育文化振興財団



# 1. 学習セクターのご案内

《月曜日開催のコース》 : (各コース定員 30 名)

コース	発 想	講義のテーマ	講 師
① 音楽の魅力	「人類にとって音楽は必要なものであろうか!」。不要不急が叫ばれるコロナ禍の時代、この疑問について考えながら、クラシック音楽から現代音楽、ジャズ、ポップスまでを取り上げ論議します。ヴァイオリニスト、ピアニスト、ピアノ技術者、ギタリスト、管楽器奏者、オペラ歌手、ジャズ演奏家、などの音楽の第一線で創造や演奏に携わる人たちが講師として登場し、音楽の魅力について語り、みなさんと一緒に音楽とは何かを考えていきます。講義は、ヴァイオリンやピアノの演奏、オペラ歌手の声楽や、他の楽器の実演もあり、さまざまな曲の解説も加わる楽しいものです。音楽会、コンサートなどに縁の薄かった方々にも「音楽のとりこ」になっていただける時間です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラシック音楽とその歴史</li> <li>・ヴァイオリンという楽器とその音楽</li> <li>・オペラは西欧芸術の華 オペラの名作、名曲</li> <li>・ピアノ芸術、楽器、ピアノの名曲</li> <li>・管楽器の独特な世界</li> <li>・ビジネスとしての音楽</li> <li>・民族と音楽</li> <li>・ジャズやギター音楽の面白さ</li> </ul>	<p>◆主任講師 ヴァイオリニスト <b>金関 環</b></p> <p>◆講師 大阪音楽大学講師・声楽家 <b>清原 邦仁</b> ピアニスト <b>加藤 英雄</b> ピアノ技術者 <b>荒木 欣一</b> ギタリスト <b>古川 忠義</b> ジャズピアニスト <b>宮川 真由美</b> ウード奏者 <b>加藤 吉樹</b> フルーティスト <b>森本 秀希</b> クラシックコンサート企画/制作 講師未定</p>
② 英語を学ぶ	今や外国人に英語で日本の歴史や文化を語らなければならない時代です。この講座では John K. Gillespie Japan: A Short History がテキストです。英文法的には中学3年生～高校1年生程度ですが単語には難しいものもあります。誰でも目や耳にハンディのある高齢者に合わせて、単語の発音と文章の読み、意味の把握のあと、同じ文章の聞き取りを10回ぐらい行います。そうすることで理解が進みます。語学の学習は反復や努力が大切です。努力することによって良い結果が導かれることが経験上わかっています。おおいに頑張りたいと思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語と文章の発音の重視</li> <li>・ヒアリングの重視</li> <li>・文の大意の把握 (内容の理解)</li> <li>・日本史の理解</li> <li>・英語の学習法について</li> </ul> <p>※講義には辞書を持参してください。</p>	<p>◆主任講師 大阪外国語大学名誉教授 <b>柴山 靖司</b></p>
③ 英会話	「英語を学ぶ」コースと同様に、日本の文化、歴史を発信できる英語を扱って学習をすすめていきます。このコースの受講生は、「英語を学ぶ」コースの受講生、卒業生、または「英語を学ぶ」コースの主任講師の面接を受けた方に限定させていただきます。みなさん活発に楽しくやっています。英会話では積極性が大切です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語を学ぶ」コースの上級講座として位置づけ</li> <li>・日本の歴史、文化などを英語でディスカッション</li> <li>・会話の積極性</li> </ul>	<p>◆講師 関西外国語大学卒 <b>西田 佳枝子</b></p>
④ 伝統芸能と大阪	日本の芸能の源泉は戯曲と音楽性が調和した中世の能や狂言にある。近世初期には京都・大阪・江戸に庶民芸能の場である「劇場」が生まれ舞台芸術が芸能として定着した。江戸時代には京都・大阪を中心に近松門左衛門の人形浄瑠璃、市川團十郎の荒事、坂田藤十郎の和事など多彩な歌舞伎が芸能として開花し現代へと発展してきた。そして説話文学などに源流を求められることができる芸能が発展し「寄席」が生まれ、落語(落し噺)・漫才・講談(講釈)となり、大衆の中に浸透していった。今期の授業では、内容を解説し、また実演を重視してゆきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能の世界とその表現</li> <li>・狂言のおもしろさと日本語の美しさ</li> <li>・歌舞伎の東西とその特色</li> <li>・浄瑠璃 世界に誇る人形劇</li> <li>・落語の成立 大阪と東京</li> <li>・万歳と漫才 その成り立ちと現在</li> <li>・講談という芸 昔と今</li> </ul>	<p>◆講師 元京都造形芸術大学講師 <b>青木 繁</b> 能楽師 <b>武富 康之</b> 能楽師 <b>大槻 裕一</b> 狂言 大和座 <b>神沢 和明</b> 落語家 <b>桂 文三</b> 落語家 <b>笑福亭 生喬</b> 漫才作家 <b>藤田 富美恵</b> 漫才作家 <b>藤田 曜</b> 講師 <b>旭堂 南海</b></p>

《月曜日開催のコースの受講時間と開催日》 全 20 回

① 音楽の魅力 コース	10:30~12:00	4月 26日	5月 17日、24日、31日
② 英語を学ぶ コース	12:30~14:00	6月 14日、21日	7月 12日、26日
③ 英会話 コース	14:30~16:00	8月 お休み	9月 13日、27日
④ 伝統芸能と大阪コース	14:30~16:00	10月 18日、25日	11月 8日、15日、29日
		12月 13日、20日	1月 17日
		2月 14日、21日	

《火曜日開催のコース》 : (各コース定員 30 名)

コース	発 想	講義のテーマ	講 師
⑤ 日本の文学と大阪	現代はあまりに機械化され、人間が本来もっている生の生命力が損なわれています。そんな時代ゆえ、悩み、苦しみ、また笑い、楽しむという生の人間性をとりもどす必要があります。文学は生の人間性を論ずるものです。まず明治以来の日本の近代文学の流れを学びます。それを前提に大阪の帝塚山文化・文学を勉強します。今年は大阪が生んだ大作家、司馬遼太郎、山崎豊子、田辺聖子などもあつきたいと考えています。堺は大阪内部にありつつ独特の文化・文学・芸術をもった都市です。千利休、与謝野晶子などを取り上げます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代文学</li> <li>明治・大正期の文学 森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介、宮沢賢治 等々</li> <li>大阪の帝塚山文化とは</li> <li>帝塚山文化より生まれた文学 庄野潤三、阪田寛夫、司馬遼太郎、山崎豊子、田辺聖子 等々</li> <li>堺の文化と文学</li> <li>千利休と与謝野晶子</li> </ul>	<b>◆講師</b> 天理大学名誉教授 <b>太田 登</b> 大阪松蔭女子大学 国文科准教授 <b>壇原 みすず</b> 元産経新聞編集委員 <b>石野 伸子</b> さかい利昌の杜 学芸員 <b>森下 明穂</b>
⑥ 日本の歴史と大阪	歴史学は現在の変革のためにあります。これは大前提。また大阪については、日本の歴史を分析する中で考えます。日本史から独立した大阪の歴史などありません。そして歴史は時間の流れと関係した事実のみによって説明できるものではありません。日本の国もしくは民族には古い時代に形成された特徴があります。神話の社会で形成されて今でも残っている特徴です。天皇制。第二次世界大戦中、日本は、天皇は神だとして諸国をこの神の支配下におくためとして侵略しました。満州国問題について、今年も著名な西村成雄先生が講義を担当します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史から何を学ぶか</li> <li>「古事記」「日本書紀」と神話の世界</li> <li>神話が語る日本人の特質</li> <li>「太閤記」と大阪</li> <li>日本ならびに大阪と近世の経済</li> <li>大阪経済と船場の商業</li> <li>武士道とは</li> <li>明治維新</li> <li>藩閥政治論</li> <li>大阪経済の没落と再興</li> <li>日本史と大阪</li> </ul>	<b>◆講師</b> 元京都造形芸術大学講師 <b>青木 繁</b> 大阪大学名誉教授 <b>西村 成雄</b> 大阪外国語大学名誉教授 <b>崇山 靖司</b> 産経新聞社編集委員 <b>安本 寿久</b> 講談師 <b>旭堂 南海</b> 大阪市立大学名誉教授 <b>安井 國雄</b>
⑦ 国際社会への理解	国際社会は、国内社会と異なった特徴を持ちます。国際社会には国際法による秩序があるといわれますが限定的です。法は国家のような強制力によって行使されますが、国際法を行使する中立て公正な強制力は国際社会にはありません。国際社会は無秩序です。その結果、武力・軍事を多く持った大国中心の政治が行われがちです。この軍事大国中心の国際秩序に対し、小国や後進国は自国の大衆を統合してたたかうために人種・宗教・言語・伝統・習慣などの共通性に依拠したナショナリズムを形成します。国際社会は複雑で、先を読むのは大変難しい状況ですが、本コースでは国際社会の基本概念を勉強することでこの難しい状況の打破を試みたいと考えます。今の時代・国際社会に注目しなければ何も分かりません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内社会と国際社会の相違</li> <li>グローバル化</li> <li>ナショナリズムとEU</li> <li>ユダヤ人問題</li> <li>アメリカの問題</li> <li>中国論の基本</li> <li>中東の諸問題</li> <li>日本の外交と日本の役割</li> <li>国際法と国連</li> <li>紛争、戦争、平和</li> <li>覇権問題</li> <li>米中対立とアジア</li> </ul> ほか	<b>◆主任講師</b> 立命館大学教授 <b>南野 泰義</b> <b>◆講師</b> 大阪外国語大学名誉教授 <b>東 泰介</b> 名古屋経済大学博士 <b>影山 伊織</b> 大阪大学博士 <b>安井 倫子</b> 大阪大学名誉教授 <b>西村 成雄</b> 大阪大学名誉教授 <b>高階 美行</b> 大阪外国語大学名誉教授 <b>崇山 靖司</b>

《火曜日開催のコースの受講時間と開催日》 全 20 回

⑤日本の文学と大阪 コース	10:30～12:00	4月	27日	5月	18日、25日
⑥日本の歴史と大阪 コース	12:30～14:00	6月	1日、15日、22日	7月	13日、27日
⑦国際社会への理解 コース	14:30～16:00	8月	お休み	9月	14日、28日
		10月	19日、26日	11月	9日、16日、30日
		12月	14日、21日	1月	18日
		2月	15日、22日		

【受講料】 1 コース 35,000 円 (教材費含む) ※いったん納入いただいた受講料は原則としてお返しできません

※各コースの受講生は、〈 受講登録したコースの講座 20 回 ・ 合同講義 6 回 ・ シンポジウム 2 コマ 〉 の合計 28 回分の講義を受講することができます。

# 《合同講義とシンポジウム》

《合同講義》 全6回 時間 10:00~12:00(予定)

《シンポジウム》 全2コマ

- ・第1回 2021年 10月 8日 (金)
- ・第2回 2021年 11月 19日 (金)
- ・第3回 2021年 12月 10日 (金)
- ・第4回 2022年 1月 7日 (金)
- ・第5回 2022年 1月 21日 (金)
- ・第6回 2022年 2月 25日 (金)

- ・開催日 2022年 3月 4日 (金)
- 1コマ目 10:00~12:00
- 2コマ目 13:00~15:00

\*合同講義のテーマ、演題はその都度お知らせします。



## 2. 文化・芸術セクターのご案内

コースと内容(各コース定員 30名)

<p><b>I. オペラ・音楽鑑賞会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オペラ・音楽をDVDで鑑賞します。</li> <li>◇開催：原則奇数月の第1月曜日 13:15~16:00(予定)</li> <li>◇場所：難波市民学習センター</li> <li>・年間6回、定例の開催として実施します。年会費制で6,000円。</li> <li>◇解説：杉田 信博(合唱指揮者)、兼山 靖司</li> </ul> <p>・開催日：5月10日、7月5日、9月6日、11月1日、1月10日、3月7日 ※いずれも月曜日です。</p>
<p><b>II. 国際文化研究会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際問題を講師の講演を中心にディスカッションして理解を深めます。</li> <li>◇開催：原則偶数月の第1月曜日 13:30~16:00(予定)</li> <li>◇場所：難波市民学習センター</li> <li>・年間6回、定例の開催として実施します。年会費制で6,000円。</li> </ul> <p>・開催日：4月5日、6月7日、8月2日、10月4日、12月6日、2月7日 ※いずれも月曜日です。</p>
<p><b>III. 伝統芸能観賞会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統と芸能コースOBを中心に、現役も参加できる観賞会です。</li> <li>・時に応じて開催します。</li> </ul>

\*「文化・芸術セクター」の各会(I、II、III)への入会は随時可能で、開催日に手続きを行いません。



## 3. 開校式・オリエンテーション

開校式：2021年4月19日(月) 2部制  
 1部 月曜日コース受講者 10:00~12:00  
 2部 火曜日コース受講者 13:00~15:00  
 オリエンテーションも時間内に予定しています。  
 ◎会場：大阪市立難波市民学習センター(OCAT)

会場



- 大阪メロ 四つ橋線・千日前線・御堂筋線「なんば駅」  
近鉄線・阪神線「大阪難波駅」 南海線「難波駅」  
それぞれの駅から、なんばウォーク、OCATウォークを西へ。  
「OCAT」の表示に沿ってお越しください。
- JR大和路線「JR 難波駅」下車すぐ。
- 市バス「JR難波駅前」下車すぐ。

【応募資格】どなたでも(年齢・居住地は問いません)

【申込方法・応募の締切】

◆**申込方法：往復はがき**で申し込んでください。

- ①希望コース名 ②〒・住所 ③氏名(ふりがな)
- ④年齢 ⑤電話番号 ⑥あればメールアドレス を記入

返信用宛先面には、ご自分の住所をご記入下さい。

※申し込みは先着順です。定員になり次第、受付は終了させていただきます。応募先は、下記をご覧ください。

◆**応募の締切：2021年4月9日(金)**

【受講料】

◆学習セクターの7つのコース

1コースにつき **35,000円**(教材費含む)

※納入いただいた受講料は原則としてお返しできません。

【受講決定と通知、お振込みについて】

受付後、順次受講者を決定して、郵送(返信ハガキ)でお知らせいたします。すでに定員に達し、受講できない場合にも、郵送で必ずお知らせいたします。受講が決定された方には、詳しいご案内とともに受講料のお振込み方法についてご連絡いたします。

【お申込み・お問合せ】

NPO 法人 新いちよう大学校 事務局

〒540-0015 大阪市中央区十二軒町1-3-103

電話・FAX 06-6765-5055

<https://shin-icho-daigakko.cloud-line.com/>